

【公報種別】登録実用新案公報の訂正

【部門区分】第1部門第3区分

【発行日】平成16年12月2日(2004.12.2)

【登録番号】実用新案登録第3098034号(U3098034)

【登録日】平成15年9月10日(2003.9.10)

【登録公報発行日】平成16年2月19日(2004.2.19)

【年通号数】公開・登録公報2004-007

【出願番号】実願2003-2958(U2003-2958)

【訂正要旨】出願変更の原出願番号の誤載により下記のとおり全文を訂正する。

【国際特許分類第7版】

A 4 7 L 17/00

A 4 6 B 15/00

【F I】

A 4 7 L 17/00 A

A 4 6 B 15/00 A

【記】別紙のとおり

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3098034号
(U3098034)

(45) 発行日 平成16年2月19日(2004.2.19)

(24) 登録日 平成15年9月10日(2003.9.10)

(51) Int.Cl.⁷

A 4 7 L 17/00

A 4 6 B 15/00

F I

A 4 7 L 17/00

A 4 6 B 15/00

A

A

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願2003-2958 (U2003-2958)
(22) 出願日 平成15年5月23日(2003.5.23)
出願変更の表示 特願平11-7847の変更
原出願日 平成11年1月14日(1999.1.14)

(73) 実用新案権者 594064998
橋本 秀昭
茨城県稲敷郡美浦村大字茂呂1049番地の1
(74) 代理人 100078950
弁理士 大塚 忠
(72) 考案者 橋本 秀昭
茨城県稲敷郡美浦村大字茂呂1049-1
(72) 考案者 岩井 五雄
千葉県我孫子市中里707番地の3

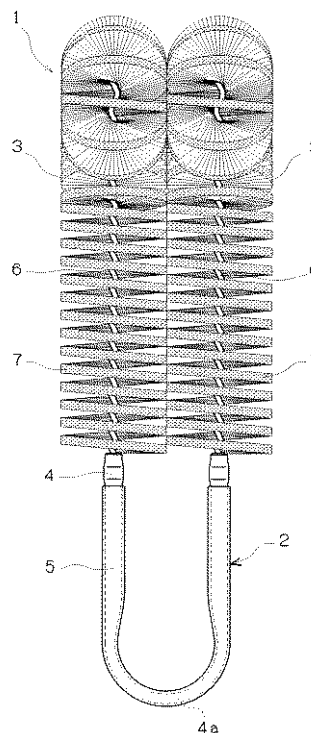
(54) 【考案の名称】 ジョッキ洗浄ブラシ

(57) 【要約】

【課題】 ビールジョッキの内外を効率的に簡単に楽に洗浄でき、構成が簡単で製作が容易な洗浄ブラシを提供する。

【解決手段】 U字状の把手2の両端に一对のブラシ本体3を平行に伸びるように結合して洗浄ブラシ1を構成する。把手2は金属管材4の中間部に扁平部4aを形成し、ここを湾曲させてU字状に形成し、これに合成樹脂製の柔軟なカバー5を被覆する。ブラシ本体3は、2本の金属線を心線6として、毛材7を挟んで撚り、毛材7を螺旋状に連続するように固定して構成する。ブラシ本体3は、相互の毛材7の先端部が接する間隔とする。心線6の基端部は管材4をかしめて固定する。心線6の先端部は、渦巻き状に湾曲させて毛材7がジョッキの内面に良好に接触するようにする。一方のブラシ本体3をジョッキの内部に挿入して、ジョッキの内外両側面を同時に洗浄できる。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

ほぼ U 字状に湾曲する把手の両端に棒状のブラシ本体を取り付けて成り、前記ブラシ本体は、一対の金属心線の相互間に毛材を挟んで撚り、金属心線周りに螺旋状に毛材を配して成り、一対が互いに毛先を接触させる間隔で把手に取り付けられ、前記把手は、ステンレススチール製の管材を湾曲させて成り、湾曲部に圧搾成型による扁平部を有し、この扁平部が前記一対のブラシ本体間を開閉するばね性を有することを特徴とするジョッキ洗浄ブラシ。

【請求項 2】

前記金属心線の先端部が、基端寄りの位置から把手の延伸面に対して一方へ直交方向に膨出し、これより先端側の位置で反対方向へ戻るように円弧状に湾曲して終結し、毛材がこれに沿って配置されていることを特徴とする請求項 1 に記載のジョッキ洗浄ブラシ。 10

【請求項 3】

前記ブラシ本体の金属心線の基端部が、前記把手の両端に挿入され、かしめ止めされていることを特徴とする請求項 1 に記載のジョッキ洗浄ブラシ。

【請求項 4】

前記ブラシ本体の金属心線の基端部が、前記把手の両端に着脱自在に挿入されていることを特徴とする請求項 1 に記載のジョッキ洗浄ブラシ。

【考案の詳細な説明】**【0001】**

20

【考案の属する技術分野】

本考案は、ジョッキを洗浄するためのブラシに関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

従来、ジョッキの洗浄作業では、内側をブラシで洗い、外側はスポンジ等で洗っている。ブラシは、ジョッキのほぼ 70 mm の内径に対応するほぼ 80 mm の外径を有する 1 本のものである。このブラシは、毛足がほぼ 40 mm と比較的長いので、毛材の弾力が弱く、短時間で効率的にジョッキの洗浄を行うことができないし、ジョッキの外側面の洗浄作業には使用しにくいという問題点がある。

【0003】

30

【考案が解決しようとする課題】

従って、本考案は、毛材に十分な弾力があり、短時間で効率的にジョッキの洗浄を行うことができ、ジョッキの外側面の洗浄作業にも使用できるジョッキ洗浄ブラシを提供することを課題としている。

【0004】**【課題を解決するための手段】**

上記課題を解決するため、本考案においては、ほぼ U 字状に湾曲する把手 2 の両端に棒状のブラシ本体 3 を取り付けてジョッキ洗浄ブラシ 1 を構成する。ブラシ本体 3 は、一対の金属心線 6 の相互間に毛材 7 を挟んで撚り、金属心線 6 周りに螺旋状に毛材 7 を配して成る。ブラシ本体 3 の一対が互いに毛先を接触させる間隔で把手 2 に取り付けられる。把手 2 は、ステンレススチール製の管材 4 を湾曲させて構成し、湾曲部に圧搾成型による扁平部 4 a を設ける。一対のブラシ本体 3 をジョッキ 8 内に挿入し、内側を洗浄する。一対のブラシ本体 3 を並べた幅寸法がジョッキ 8 の内径にほぼ対応する。ジョッキ 8 の内径が 70 mm とすれば、ブラシ本体の毛足の長さは 20 mm 程度で、良好な弾力を保持する。一対のブラシ本体 3 間にジョッキ 8 の側壁を挟めば、ジョッキ 8 の側壁の内外を同時に洗浄できる。この場合、一対のブラシ本体 3 間に、把手 2 の扁平な湾曲部による良好な弾性をもってジョッキ 8 の側壁を挟み、効率的に洗浄することができる。把手 2 の素材である 1 本のステンレススチール製管材 4 の中央部を圧搾して扁平部 4 a を形成し、この扁平部 4 a を円弧状に屈曲させることで容易に把手 2 を形成できる。 40

金属心線 6 の先端部を、基端寄りの位置から把手 2 の延伸面に対して一方へ直交方向に膨 50

出させ、これより先端側の位置で反対方向へ戻るように円弧状に湾曲させて終結させれば、ブラシ 1 の先端部に放射状に毛材 7 が配置され、ジョッキ 8 の側壁の最下部付近から底部にわたる断面円弧状の部位を効率的に洗浄できる。

ブラシ本体 3 の金属心線 6 の基端部を把手 2 の両端に挿入して、かしめ止めすることで容易に両者を結合できる。

ブラシ本体 3 の金属心線 6 の基端部を把手 2 の両端に着脱自在に挿入するようにすれば、消耗品であるブラシ本体 3 を把手 2 と別個に交換することができて経済的である。

【 0 0 0 5 】

【 考 案 の 実 施 の 形 態 】

本考案の実施の一形態を図面を参照して説明する。図 1 は洗浄ブラシの正面図、図 2 は側面図、図 3 は平面図、図 4 は底面図、図 5 は心線材の正面図、図 6 は心線材の側面図、図 7 は洗浄ブラシの使用状態の正面図、図 8 は洗浄ブラシの他の使用状態の正面図である。図 1 乃至図 4 において、洗浄ブラシ 1 は、U 字状の把手 2 と、把手 2 の両端に結合してほぼ平行に棒状伸びた一对のブラシ本体 3 とを具備する。

【 0 0 0 6 】

把手 2 は、図 6 , 図 7 に示すように、ステンレススチール製の管材 4 で構成される。直線状の管材 4 の中間部を圧搾して扁平部 4 a を形成し、この扁平部 4 a を円弧状に湾曲させて U 字状に形成する。把手 2 の形成は容易である。扁平部 4 a により、把手 2 を握ったときに、その両端部の相互間を弾性的に拡大、縮小できる。管材 4 を合成樹脂製の柔軟なカバー 5 で被覆して把手 2 が構成される。

【 0 0 0 7 】

ブラシ本体 3 は、金属製の心線 6 の周りに毛材 7 を植設して構成されている。即ち、ブラシ本体 3 は、2 本の心線材の相互間に毛材 7 を挟み、心線材を撚って構成される。毛材 7 は心線 6 の周りに螺旋状に連続した並びとなる。ほぼ平行なブラシ本体 3 , 3 の相互間隔は、互いの毛材 7 , 7 の先端部分が接し、あるいは重合する程度になっている。図 5 , 図 6 に示すように、金属心線 6 の基端部は、把手 2 の両端の管状部に挿入され、かしめ止めされている。心線 6 の基端部は、把手 2 の両端の管状部に着脱自在に挿入するように構成することもできる。この場合、個別交換でき経済的である。金属心線 6 の先端部は、基端寄りの位置から把手 2 の延伸面に対して一方へ直交方向に膨出し、これより先端側の位置で反対方向へ戻るように円弧状に湾曲して終結している。

【 0 0 0 8 】

図 8 に示すように、一对のブラシ本体 3 をジョッキ 8 内に挿入し、内側を洗浄する。一对のブラシ本体 3 を並べた幅寸法がジョッキ 8 の内径にほぼ対応する。ジョッキの内径が 70 mm とすれば、ブラシ本体の毛足の長さは 20 mm 程度とする。毛材 7 は洗浄のために良好な弾力を保持する。図 9 に示すように、一对のブラシ本体 3 , 3 間にジョッキ 8 の側壁を挟めば、ジョッキ 8 の側壁の内外を同時に洗浄できる。この場合、作業者が把手を握ると、把手 2 の扁平な湾曲部により、一对のブラシ本体 3 , 3 間に、ジョッキ 8 の側壁を挟む良好な弾力が付与され、効率的に洗浄できる。金属心線 6 の先端部の曲がりにより、ブラシ本体 3 の先端部に放射状に毛材 7 が配置され、ジョッキ 8 の側壁の最下部付近から底部にわたる断面円弧状の部位を効率的に洗浄できる。

【 0 0 0 9 】

【 考 案 の 効 果 】

以上のように、本考案においては、ほぼ U 字状に湾曲する把手 2 の両端に棒状のブラシ本体 3 を取り付けてジョッキ洗浄ブラシ 1 を構成し、ブラシ本体 3 は、一对の金属心線 6 の相互間に毛材 7 を挟んで撚り、金属心線 6 周りに螺旋状に毛材 7 を配して成り、ブラシ本体 3 の一对を互いに毛先を接触させる間隔で把手 2 に取り付け、把手 2 は、ステンレススチール製の管材 4 を湾曲させて構成し、湾曲部に圧搾成型による扁平部 4 a を設けるようにしたため、一对のブラシ本体 3 をジョッキ 8 内に挿入し、内側を洗浄すれば、毛材 7 が良好な弾力を保持して効率的に洗浄でき、一对のブラシ本体 3 , 3 間にジョッキ 8 の側壁を挟めば、扁平な湾曲部の良好な弾性でジョッキ 8 の側壁の内外を同時に効率的に洗浄で

10

20

30

40

50

きるという効果を有する。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 洗浄ブラシの正面図である。

【図 2】 洗浄ブラシの側面図である。

【図 3】 洗浄ブラシの平面図である。

【図 4】 洗浄ブラシの底面図である。

【図 5】 心線材の正面図である。

【図 6】 心線材の側面図である。

【図 7】 洗浄ブラシの使用状態の正面図である。

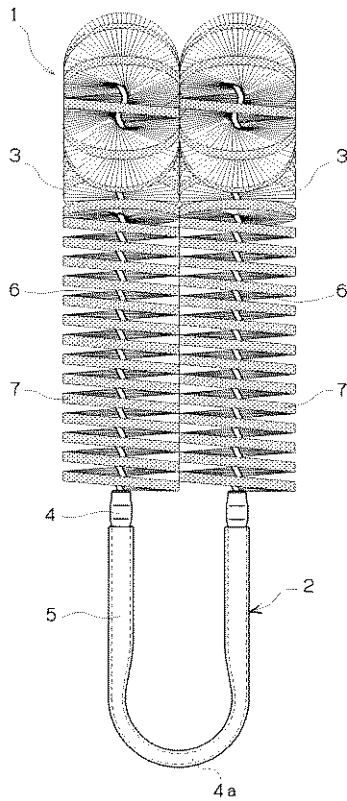
【図 8】 洗浄ブラシの他の使用状態の正面図である。

10

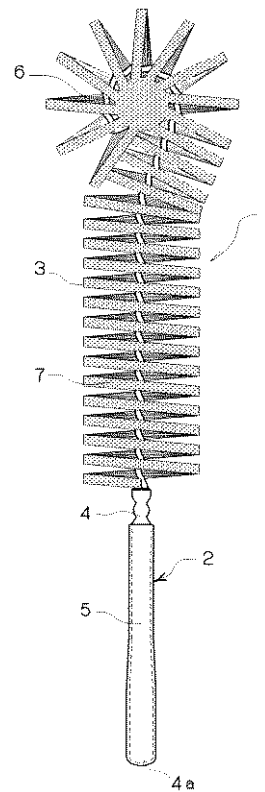
【符号の説明】

- 1 洗浄ブラシ
- 2 把手
- 3 ブラシ本体
- 4 管材
- 4 a 扁平部
- 6 心線材
- 7 毛材

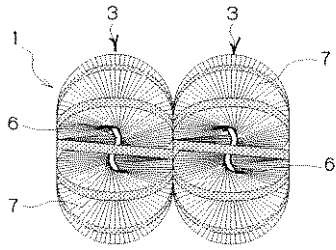
【図 1】



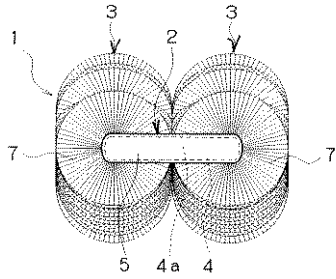
【図 2】



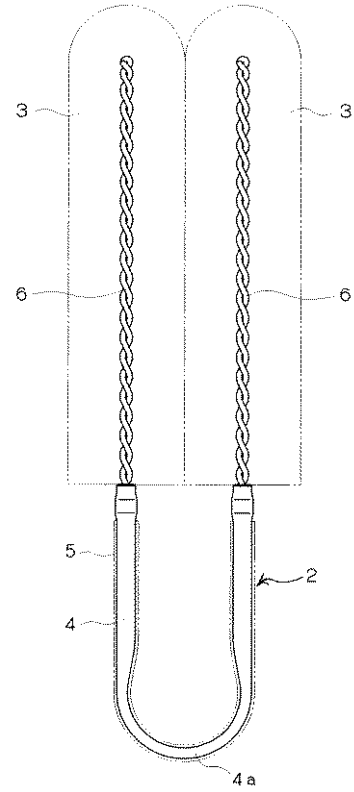
【図 3】



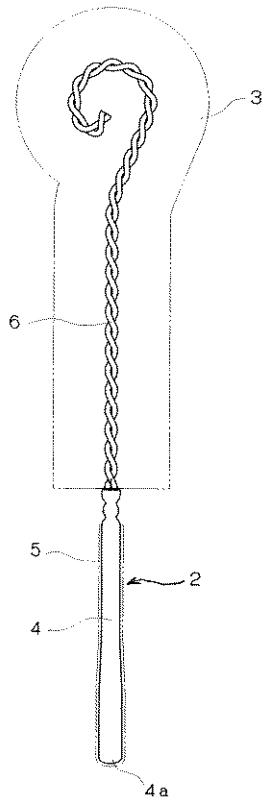
【図 4】



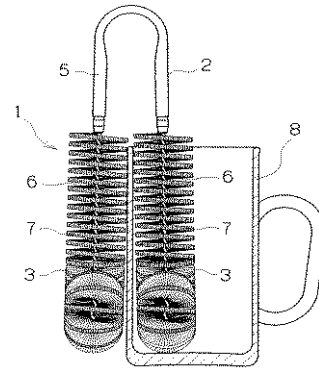
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【図 8】

